

Q.栽培する作物はどうやって決めるの？

自分が目指す
営農スタイルに
合わせて



私の場合、大学在学中に道内各地の農家さんでお手伝いをさせてもらい、自分にはどんなスタイルの農業が合うのかいろいろと模索しました。用意できる資金や自分にこなせる作業量を考えると、酪農や大規模農業はハードルが高い。そうすると小規模でも収益性のある作物が良いんじゃないかと考えて、施設園芸のミニトマトを選びました。(廣井さん)

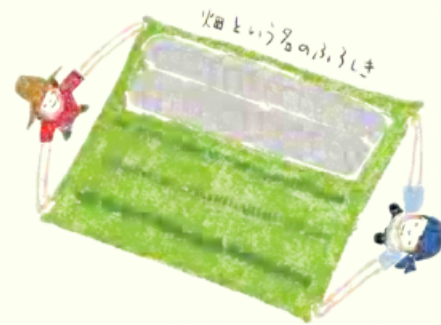


Q.ホントに食べていける？

知識と技術の習得が
第一



新規就農から一定の収入が得られるまで2~3年かかるのが一般的だと言われています。悪天候など予測できないリスクもあり、新規就農から数年で離農してしまう人がいるのも事実です。しかし、しっかりと知識や技術を身に付けることでリスクは軽減でき、不測の事態でも最小限の被害に抑えることは可能です。また、農業法人等に就職して給与をもらいながら農業に取り組むのであれば、基本的に収入の心配はいりません。(支援窓口担当者)



Q.一人就農はやっぱり無理？

パートナーがいると
断然スムーズ！



例えばビニールハウスを組み立てるにしても、一人よりも二人のほうがはるかに効率が良いですし、農繁期に手が足りず、作業が追いつかなくなっても作物は待ってくれません。研修に参加する時は一人だとしても、できるだけ早い段階で信頼できるパートナーを見つけたほうが、スムーズな営農を実現できます。新規就農は夫婦で行うケースが多いですが、必ずしも夫婦でなければダメということでもありません。安心して頼れる相手なら友達や兄弟でも良いと思います。(支援窓口担当者)

Q.地域の人たちと打ち解けるには？

新年会にお邪魔！



私はこちらに引っ越してすぐ地域の新年会にお邪魔したんです。そこで挨拶させてもらった「農業やるんだって？」って、すでに周りの皆さん知ってくれて。「応援するよ！」って言ってくれたり、「雪で車埋まったら助けるから！」って言ってくれたり(笑)。皆さんやさしくて良かったなと思いました。(廣井さん)



Q.一番苦労したことは？

就農先を見つけるまでが
最初の壁



どの地域で就農するかを決めるまでが、一番大変だったように思います。女性一人ということで話を聞いてもらえないこともありまして、「あとで連絡する」と言われてそれっきりになったことも…。結局はインターネットで見つけた先輩農家さんのアドバイスを聞いて石狩で就農することになったので、自分から積極的に行動することが大事だったんだと思っています。(佐々木さん)



Q.農業に向いている人って？

自ら判断し、試行錯誤を
楽しめる人



農業者は経営者でもあるため、育てる作物の品種から農作業のタイミングまで、すべて自分で判断しなくてはなりません。何をすることも自由である一方、すべての責任を自ら負う必要があります。そうした点にやりがいを感じ、自分から積極的に学んだり、試行錯誤を楽しめる人には向いている職業と言えるでしょう。(支援窓口担当者)

Q.どんな支援制度があるの？

必要な
タイミングで
必要な支援を



資金面に関しては国による「農業次世代人材投資資金」を始め、北海道や石狩市など自治体ごとに用意しているさまざまな融資・助成制度を活用できます(詳しくは18ページ)。そのほか、農業技術の研修や住宅・農地のあっせん。就農後のフォローなど、必要に応じたサポートを行っています。(支援窓口担当者)

Q.研修にはどんな姿勢で臨むべき？

地域の人に
認めてもらうキモチで



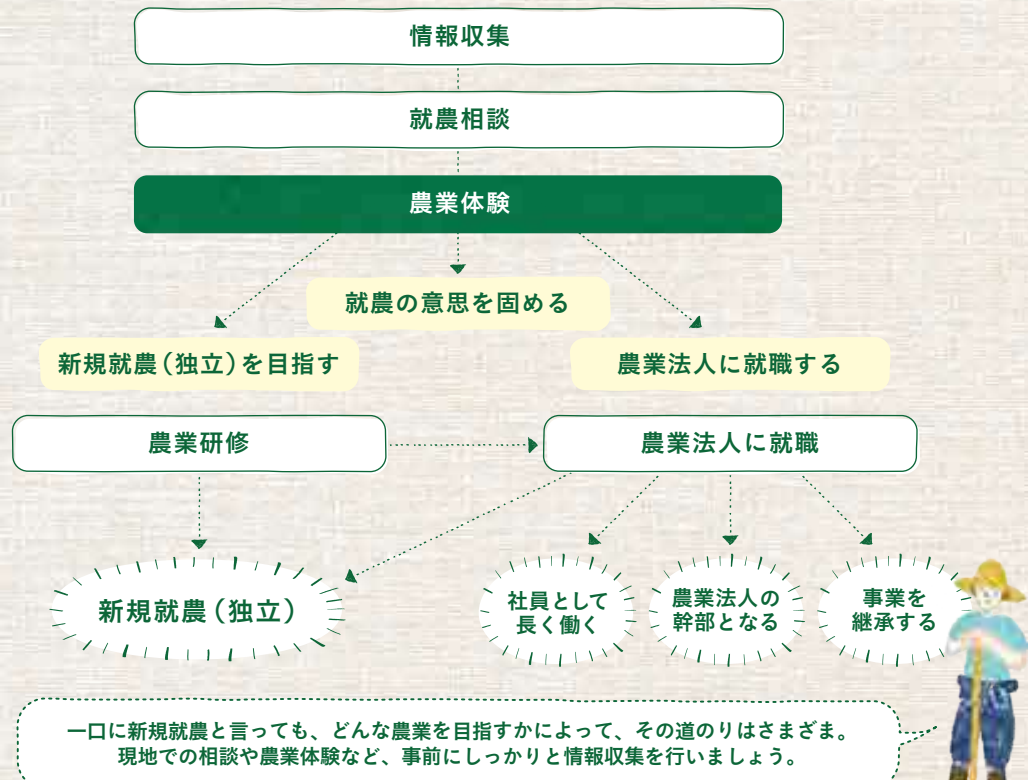
「このまちで新しく農業をスタートするのは、どんな人かな?」。地域の人たちは、自分たちのまちにやってきた研修生をそんな思いで見守っています。「この人ならきっと大丈夫!」と、皆さんに認めてもらうのも研修期間の意義。あなたの頑張りに多くの人が期待を寄せているのです。(支援窓口担当者)



石狩で就農するには？

石狩で就農を希望する方は右ページの就農サポート窓口にご相談ください。
就農までの一般的な流れは次のようになります。

一般的な就農までの流れ



支援制度の紹介

研修生への支援

◎農業次世代人材投資資金(準備型)

北海道が認める研修機関や先進農家・先進農業法人で研修を受け就農するなどの要件を満たす研修生に対し、最長2年間、年間最大150万円を支給する

◎農家研修受入体制強化事業

◎就農研修者家賃助成事業

◎大型特殊免許取得支援事業

新規就農者への支援

◎青年等就農資金

◎農業次世代人材投資資金(経営開始型)

1/2以内、最長3年間助成 ※5年以上の契約が必要

◎農地保有合理化事業

◎公社営農場リース事業

※詳しくは、各就農サポート窓口までお問い合わせください。

石狩の就農サポート窓口

石狩市

石狩市農業総合支援センター

北海道石狩市八幡2丁目332番地11
TEL 0133-66-3345
<https://ishikari-asc.jp/>

大消費地の札幌に隣接する優位性を生かした都市近郊農業がおこなわれ、多種多様な品目が栽培されています。『JAいしかり地物市場とれのさと』(産地直売所)には約100戸の農家が新鮮な野菜を提供し、消費者と食と農でつながる交流の場となっています。

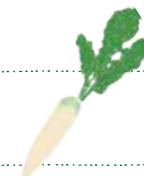
【地区の主な農産物】

じゃがいも、にんじん、大根、ブロッコリー、さやえんどう、ミニトマト

【新規就農受入可能な作物】

ミニトマトを基幹作物とした施設野菜

【単身者の就農】相談可



札幌市

札幌市農業支援センター

北海道札幌市東区丘珠町569-10
TEL 011-787-2220
<http://www.city.sapporo.jp/keizai/nogyo/center/index.html>

過去5年間で計15名程度の新規就農実績があり、就農者は現在も札幌市内で農業を営んでいます。その多くは比較的小さい規模で観光農園や少量多品目を栽培し、直売所などへ出荷する都市ならではの農業を行っています。

【地区の主な農産物】

玉ねぎ、コマツナ、ホウレンソウ、かぼちゃ、レタス

【新規就農で受け入れ可能な作物】

園芸品目全般

【単身者の就農】相談可



当別町

当別町農業総合支援センター

北海道石狩郡当別町錦町53番地57 北石狩農業協同組合内
TEL 0133-23-2552
<http://www.ja-kitaisikari.or.jp/contents/shien/>

「札幌から一番ちかい、いなか」と呼ばれ、約500戸が農業に携わっています。米、小麦などを中心にカボチャ、じゃがいも等の多品目野菜を生産。また、花の生産が盛んで、ユリは北海道一の生産量を誇ります。近年ではIT機器を活用したスマート農業の実証試験にも積極的に取り組んでいます。

【地区の主な農産物】

米、小麦、大豆、小豆、かぼちゃ、じゃがいも、ブロッコリー、アスパラ、にんじん、スイートコーン、花(ユリ、カスミソウ、カーネーション等)

【新規就農受入可能な作物】

ユリを軸にした花、野菜

【単身者の就農】相談可



江別市、北広島市、恵庭市、千歳市

公益財団法人 道央農業振興公社

北海道恵庭市西島松41番2
TEL 0123-39-6057
<https://www.douou-nsk.jp/>

公社には1.6haの圃場があり、研修1年目には基礎的な知識の習得と地域の主力野菜の栽培トレーニング、2~3年目には地域の農業者の農場と一緒に作業しながら学ぶという、実践経験の積み上げと地域の人達との信頼関係構築を重視した研修を行っています。小麦や大豆といった畑作経営に興味のある方は、地域の農業法人と連携した研修も可能です。

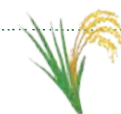
【地区の主な農畜産物】

米、小麦、大豆、小豆、てん菜、ブロッコリー、かぼちゃ、じゃがいも、スイートコーン、大根、キャベツ、牛乳、肉牛

【新規就農で受け入れ可能な作物】

野菜(主要作物から選択)、畑作(小麦、大豆等)

【単身者の就農】相談可



新篠津村

新篠津村農業振興センター

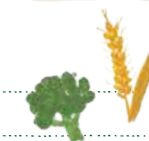
北海道新篠津村第47線北12番地 TEL 0126-58-3611

米、小麦、大豆が代表的な農産物で、農業を使用しない有機農業にも積極的に取り組んでいます。新規就農者には村から就農支援用農地を1年間無償で貸し出しているほか、農業に関する基礎知識や実践的な技能を習得する「農業塾」などの取り組みも行っています。

【地区の主な農産物】米、小麦、大豆、玉ねぎ、ブロッコリー、花

【新規就農受入可能な作物】露地野菜、施設園芸 【単身者の就農】相談可

※現在、農地の空きが少ないため、ご希望に添えない場合がございます。





二人のインタビューや
石狩の農業のもっと詳しい
情報は動画で!



YouTubeで
動画をチェック! /

くらしごと 石狩農業



北海道石狩振興局産業振興部農務課

〒060-8558

北海道札幌市中央区北3条西7丁目
道庁別館6階

TEL 011-204-5845

©2021年3月発行

このパンフレットは北海道を応援する皆様から
お寄せいただいた「ふるさと北海道応援寄付金」
を活用して作成しています。